
お前がいてくれて、本当によかった。

ASH

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お前がいてくれて、本当によかった。

【Nコード】

N4167C

【作者名】

ASH

【あらすじ】

人間にはどこかに悩み事っていうのは必ずあるものだと思う。悩んで。どうしようもなく辛くなった時、助けてくれるのは大事な友達だと思っんです。

周りから誰もいなくなったとしても、お前はずっと友達でいてくれよ。

一人で悩んで解決なんてするわけもなかった。

ずっと悩んでやっと打ち明けた時、俺はどうしようもない顔してたと思う。

だけど親身になって聞いてくれた。

考えてくれた。

慰めてくれた。

俺みたいなバカな人間のために。

正直、ほっとした。

だんだん周りから誰もいなくなるみたいで。

ついには一人になってしまみたいで。

だけど…そうじゃなかった。

ちゃんと周りにはみんないる。

そりゃあ数は少ないかもしれないよ？

…だけどいる。

一人じゃないって初めて気づいた。

被害妄想してるだけだったのかな？

もしかしたら嫌われてるって思ってたのは俺だけだったのかな？

周りと上手くいってなかったのは本当のことだと思う。

影で嫌みでも言われてるんじゃないかって思って、辛かった。

だんだん一人の方が楽だって思い始めた。

でも、そんなのは初めだけで。

やっぱり孤独は辛いもので。

どうしようもなく落ち込んだ。

人に見られてないところで一人、激しく悩んだ。

このままどんどん人付き合いができなくなったらどうしよう？

仲のいい友達も俺のこと見放すんじゃないかな？

一人になるとそんなことばかり悩んで。

ただ…辛かった。

一人になるのが怖くなっていった。

だけど、中途半端な性格で。強引に人を誘うなんてできなくて…。

だんだん一人になるしかない状況を作ってしまった。

誘っても断られたらどうしよう？

あいつ俺のこと嫌いなのかな？

そう思うと行動できなかった。

そうして人を失うのが怖かった。

一人で悩んで、どうしようもなく辛くて、ずっと部屋にこもる時間が長くなっていった。

誰かが遊ぼうって誘ってくれるのがすごくうれしかった。

本当は自分から誘いたかったんだけど。

…できなかった。

だからあの時、俺の家に来て夜中に話を聞いてくれるのがすごくうれしかった。

もし、しゃべって変なこと言われたらどうしよう？

だから口をつぐんだ。

だけどお前は無理やり聞いた。

言えよ。気になるだろう？とか言って。

話した時、俺は正直死んだ気分だった。

何言ってるんだ？俺…。バカじゃねえのって自分で思った。

だけど、真面目に聞いてくれた。

親身になって考えてくれた。

お前はやっぱり友達だよ。って思ってしまった。

俺の考えはバカだった。

そんなの勝手に思い込みすぎだって気づかせてくれた。

今までの経験があるから今のお前がいるんだよ。

人の目ばかり気にしてバカじゃないの？

俺みろよ？

バカみたいだぜ？

なんでも素の自分で突っ込んでいけよ！

何、気にしてんだよ！

そんなんじゃないそう思われても仕方ねえよ。

やらない後悔よりやる後悔の方がなんぼかましだよ。

何てことなかった。

一人で考えても答えなんて出るわけなかった。

本当にバカだった。

もし、周りからみんないなくなっても俺はそばにいてやるよ。

渴いた心に暖かい水が染み渡っていくのがわかる。

心の中で何かが割れた。

だけど、中から何か、新しいものが生まれた。

俺の悩みなんて本当に、本当に…小さかった。

俺の悩みなんて…。

生まれ変わった気持ちで歩いていこうと思う。

これからもよろしく頼むわ。

本当、ありがとう。

（後書き）

お読みくださって、本当にありがとうございます。

本当に友達って大事なものだと思うんです。

上辺だけじゃなくて、心の中をさらけ出して付き合えるような親友が今の世の中の人には必要だと思うんです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4167c/>

お前がいてくれて、本当によかった。

2010年10月22日13時40分発行